



第174号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

<E-mail>

matsuoka@kosanji.or.jp

経済大国だった日本に住む私の行く末

1990年前半までは日本人が世界長者番付の上位にいました。森ビルや西武鉄道のオーナーがトップを走っていました。当時はアメリカのエンパイアステートビルを日本人が買収もしました。そしてその後にはバブル崩壊が起りました。

それから30年の月日が流れた今、日本は先進国の中で取り残されてしまいました。

日本企業の持つ技術は世界的に遅れが生じています。賃金も上がりません。最近では「東京大学」も世界ランキングでは30位以下となっています。少子高齢化が進み、日本の人口は減少の一途です。日本は衰退とい



うよりまさしく老衰していくでしょう。

今後、日本人が以前のように世界長者番付に載ることとはまずないでしょう。

モノが豊かな国ではなくなり、これからは一人ひとりが、心が豊かな人となることもとめられる時代が来ると思います。

相互に関係しあう浄土

田中智教

コロナの影響で中止になることもありましたが、この3年ほど、毎月のように法話会の講師を担う機会を得ています。そこで出される参加者からの質問が自分の想定していたもの以上の内容が多く、明確な回答ができないまま一緒に考え悩むということが多々あります。もちろん講師としては失格なのですが、その問いが私自身の問題意識を高め、学ぶ意欲を駆り立てられるという具合に、相互に学び合える大切な機会を得ています。

先日も「しんじつほうど 眞実報土（阿弥陀仏の世界である浄土）」
について話が及ぶ中で、学びの深いAさんが「私は方ほう便化土（自力を捨てきれない者）が想い描く浄土」に

しか生まれることができないと思う」とおっしゃったことに対し、私が「そうですよね」と言って頷くと、うなず
その私をみたBさんが「あなたには眞実報土に生まれると断言してほしかった」と嘆かれました。とっさのことで、浄土の教えを聞こうと思いついたBさんの意欲を削ぐような方向性を与えてしまったと思い、返す言葉が出てきませんでした。

自力を捨てきれない自身の自戒の言葉として語られたAさん、間違いなく阿弥陀仏のお浄土に生まれると断言してほしかったBさん、どちらのご意向もよくわかるわけです。しかし、浄土に往ったことのない私が断言できないところに浄土の眞実性があり、同時に私が想像し得る浄土は、どこまでいっても「方便化土」であるということ改めて了解することができた問い

であったように思います。

曾我量深師は、眞実報土と方便化土について、このように教えてくださいます。

浄土と穢土えどということは、閉鎖的であれば穢土、開放的であれば浄土ということです。開放が不十分であれば方便化土でありましょう。開放が完全であり十分であるときには、すなわち眞実報土であると了解して差し支えなからうと思うのです。

〔『教行信証大綱 曾我量深講義録 上』〕

私たち人間の生き方は、知ってか知らでか何ものかを排除してしまう生き方があります。そんな私たちが想像する浄土という世界観もまた、開放が不十分な方便化土といえるでしょう。阿弥陀仏の本願を教えられ、

そのはたらきに気づいてもなお、不完全な開放しかできない。しかし、その不完全さを認知しなければ眞実報土もわからないのです。眞実報土のはたらきを受けて方便化土がわかる、方便化土を認知して眞実報土を感じるという相互関係があることを通して、冒頭で申しあげた相互に学びあえる機会を今後も大切にしていきたいと思いを直したことでした。



得度の報告

親鸞聖人が9歳で得度を受けられたことにちなんで真宗大谷派では9歳以上になると得度が受けられるようになります。

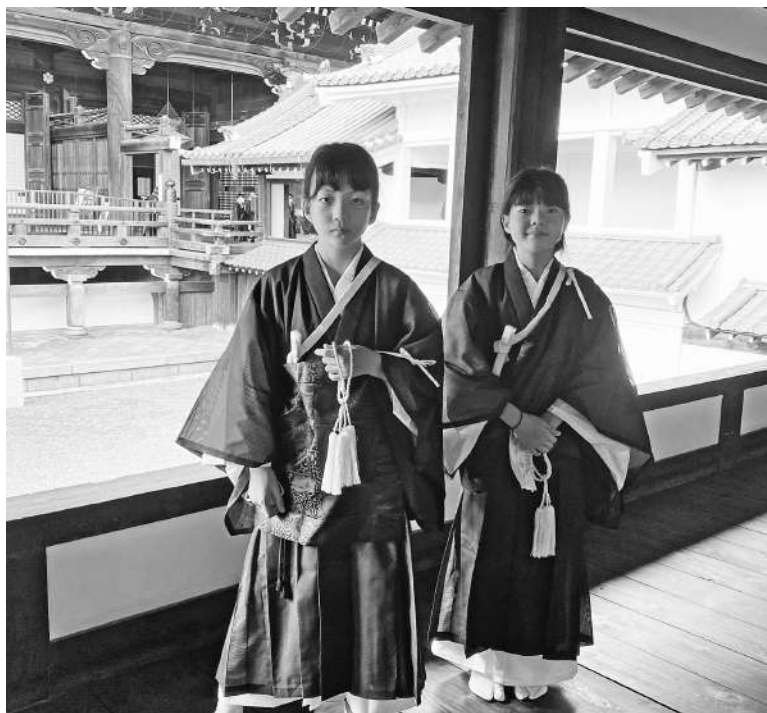
そこで、次女が9歳になったので、8月7日に長女と次女とで2人、東本願寺にて得度を受けました。なにごんコロナがひどい時期なので儀式などもかなり短縮、簡略化され得度式が執り行われました。



得度式を受ける前の白い衣(浄衣(じょうえ))を着けています

行事予定

九月二十三日(祝) 十時 秋の彼岸永代経(午前中のみ)
 九月二十八日(水) 十時 親鸞聖人命日のお勤め
 同朋会例会



得度式を終えて僧侶となり黒の直綴(じきとつ)と墨袷袢を着けています